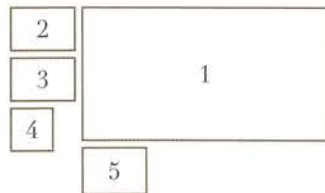


港区西麻布4丁目/竣工：2018年/総戸数：41戸（地上9階・地下1階建て）/分譲時売主：モリモト/デザイン監修：E.A.S.T.建築都市計画事務所/管理：モリモトクオリティ/取材協力：ディアナガーデン西麻布管理組合



1 北側の正面エントランス。2 エントランスホール。ソファ背面の壁はセラミックブロック。3 セットバック部に全面サッシュを採用して開放的な空間に。4 敷地は3つの道路に面しており、最も接道面の広い北側が正面エントランスに。5 エントランスホールにはフラワーアートを配置（画像：すべて川澄・小林研二写真事務所）。



ディアナガーデン西麻布
アーティストの手仕事も光る
和の感性を活かした邸宅

東泰規



Yasunori Higashi

坂倉建築研究所を経て2013年にE.A.S.T.建築都市計画事務所設立。集合住宅でグッドデザイン賞多数受賞のほか、木材を活用した駅デザインなど国内外の多彩な分野で活躍中。

E.A.S.T.
建築都市計画事務所



ナチュラな素材感を重視
和の伝統をモダンに表現

建築物をつくる環境を尊重し、その価値を最大限まで引き上げる。東氏のそんなポリシーが随所に見られるのがこちらのディアナガーデン西麻布だ。「志向したのは、日本人の感性にシンクロする住まい。です。外観には、外からの視線を遮りつつも採光を確保するため、銀糸を織ったタペストリーを挟んだガラススクリーンを作家に依頼しました。それによって、品格ある街並みを形成することも意図したのです」公道からエントランスへ続くアプローチ空間には、建物を支える柱を壁状に形成。間接照明を利かせつつ、表面に静かに水が流れるカスケードを配置し、パブリックからプライベートへ徐々に移行する空間とした。

また、その先待つエントランスホールにも注目したい。

「伊勢神宮の社殿の白木に象徴される、ナチュラな素材の美しさを活かしました。日本の伝統を感じるシンプルで静謐なデザインを目指したのです」さらに、建築規制を逆手に取った設計も光る。

「本物件は日影規制の影響で、北側の4階以上がセットバックを繰り返す段状構成。通常、北面はマイナスに受け取られがちですが、半面、南向き・西向きのように直射日光の影響を受けず、順光ビューを享受できるメリットがあります。そこで、トップライトと一体化した全面サッシュとすることで、テラス・緑との連続性を演出し、都心の眺めを愉しめる開放的な住戸をつくりました」

東氏いわく「集合住宅は街と繋がり、社会資産となるべき」。その考えを体現した名作マンションといえそうだ。



**空間と作家の創造力が共鳴
唯一無二のアートを纏う**

東氏の2例目は、住人のプライベートを守りながらも街に開かれ、繋がるマンションだ。

「外観はプリントのガラススクリーンやアルミルーバー手摺など、外からの視線を遮りつつも透明感のある素材を採用。そこに石・植栽を重ね、パブリックとプライベートの中間領域を形成しました。白金台に馴染む柔らかなファサードを意図したデザインでもありません」

エントランスホールからエレベーターに続く、1階共用部にも注目したい。東氏が作家に建築コンセプトと空間の特性を説明し、それに作家が想像力に応え、特別に制作してもらったコミッションワークを展示している。

「コンシェルジュデスクの背後に飾られている絵画は、マンションが隣接し

ている国立科学博物館附属自然教育園に生い茂る樹木の種をモチーフにしたものです。この立地や空間とシンクロする独自の作品を置くことで、より建築物としての完成度が高まると考えています」

ほかにも数点のアートワークが展示された空間を抜けてエレベーターに乗り、扉が開くとそこはもう自宅のエントランスホールだ。2つの住戸を挟む形で置かれた、コア。内部にエレベーター、避難用階段、ダストボックスなどを集積。住戸フロアの共用廊下を排除したため、私邸感が極めて高いマンションとなった。

「2住戸でひとつのコアを共有し、原則的に1フロア4戸を短冊状に配置しました。その結果、全16戸いずれも自然教育園の緑を享受することができ、南北に風と光が抜ける空間となりました。住環境のアドバンテージを最大化できたと自負しています」

DATA

港区白金台5丁目/竣工:2016年/総戸数:16戸(地上6階・地下2階建て)/分譲時売主:野村不動産/基本設計・デザイン監修:E.A.S.T.建築都市計画事務所/管理:野村不動産パートナーズ/取材協力:プラウド白金台管理組合



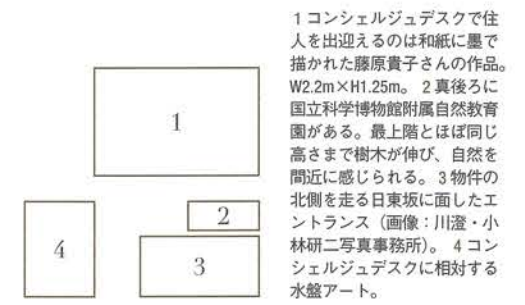
- 5
- 6
- 7

5 オートロックを抜けた正面にあるのは、福本双紅氏の陶器作品。自然教育園の土を連想させる。歪んだ造形と部分的な淡い色の釉薬が特徴的だ。6 もう1基のエレベーターに続く廊下のアートワーク。1階共用部の壁には硬質な南洋材をつかってナチュラルな印象に。7 エレベーターの扉横にかけられた絵画。ダウンライトで演出されている。



プラウド白金台

**ギャラリーを内包する
街と森に繋がる住まい**



1 コンシェルジュデスクで住人を出迎えるのは和紙に墨で描かれた藤原貴子さんの作品。W2.2m×H1.25m。2 真後ろに国立科学博物館附属自然教育園がある。最上階とほぼ同じ高さまで樹木が伸び、自然を間近に感じられる。3 物件の北側を走る日東坂に面したエントランス(画像:川澄・小林研二写真事務所)。4 コンシェルジュデスクに相対する水盤アート。



建築家が語る プレミアムマンション の条件とは？

絶えず環境が変化する都心部にありながら、色褪せぬ価値を保ち、高い居住満足度を約束する——そんなプレミアムマンションの条件とは？取材した建築家たちの言葉からヒントを探った。

東 泰規さん

E.A.S.T.建築都市計画事務所

「職住はもちろん、学ぶ、食べる、憩う、遊ぶといった多機能がそろっていることが都心の魅力です。都心に暮らす人は、これらを使いこなし、目指すライフスタイルを叶えることができます。そんな都心環境のアドバンテージを最大限に引き出せる物件こそが、プレミアムマンションでしょう。」



今井 敦さん

アーキサイトメビウス

「静けさに勝るデザインはありません。静寂の中の快適な空間こそ、プレミアムな住まいの条件です。そのためには、光や水、緑などを緻密にデザインすることが大切。それをベースに、各々の時代の最先端の住宅設備やマテリアルを取り入れた住まいなら、時とともに価値も高まるでしょう。」



堀井 健司さん

坂倉建築研究所

「固有の環境に合わせて丹念に創り上げられた、本質的な心地よさのある住まいでしょう。その心地よさを実現する上で、歴史的建造物や伝統的な日本家屋には、一朝一夕では思いつかないデザインのヒントがあります。住まうという行為において心地よさの感覚は時代が変わってもそれほど変わっていないのです。」



星野裕明さん

ホシノアーキテクト

「住宅に限らず、その土地らしさを表現して、ランドマークになるような建築物ですね。それが住まう人にとっても価値になるんじゃないかな。自分が設計するときも、「住宅」という機能から入るのではなく、街に対してどういう建築物であるべきかと発想します。」



光井 純さん

光井純 アンド アソシエーツ
建築設計事務所

「多様性と一貫性を兼ね備えた住まいこそが、プレミアムの条件でしょう。マンションと街をシームレスにデザインすることで、魅力ある街、そして豊かな住まいと暮らしが形成されていきます。」



三沢亮一さん

ミサワアソシエイツ一級建築士事務所

「永いスパンでマンションを考えたとき、時とともに価値の高まる住まいが、プレミアムマンションではないでしょうか。さらに、そのバリューアップを住人自身がさまざまな視点で考えているマンションこそ、真のプレミアムといえます。そのためにも心から愛着をもてるマンションをデザインし、時に一緒に心を巡らせることが、建築家としての使命だと思っています。」



Epilogue

建築家の想いが込められた プレミアムな空間の価値

ファッション、アート、演劇などと同様、建築も文化を形成する重要な要素だ。都心にはスポーツ施設や美術館、教育施設、劇場など数々の名建築が集積しており、集合住宅もそのひとつ。特に今回取材した6名の建築家が手掛けた集合住宅はまさにプレミアムと呼ぶに相応しい名作揃いだ。その魅力を紐解くと共通項が見えてくる。動と静、個性と調和——相反する要素を昇華することで、ランドマークで

ありながら街に融合している。土地の歴史や特性を踏まえたランドスケープも見逃せない。マンション単体ではなく街をデザインする思想ともいえる。こうした要素が相乗効果を生み、時を経てさらに価値を増していく。それがプレミアムたるゆえんだろう。プレミアムマンションがほかの名建築と異なるのは、自らが暮らし、その本質を味わい尽くせること。都心にはそんな資産が集積し、今なお新たな名作も生み出されている。一流の建築家たちが趣向を凝らした名作の価値を、ぜひご自身で体感いただきたい。